

オルガテック 2008ーケルン国際オフィス家具見本市

会期 : 2008年10月21日(火)~25日(土)

会場 : ドイツ連邦共和国 ケルンメッセ会場

来場者数が大幅増加、大成功に終わる

- 来場者 : 113 カ国から約 62,500 人、前回より 9.3%増
- 出展者 : 39 カ国から 673 社
- 世界トップレベルのオフィス家具見本市の地位を確立
- オフィスでの生産性向上コンセプトをさらに先鋭化
- 未来のオフィスに関する大規模市場調査“Ultima Office”
- 業界主要テーマのコミュニケーションプログラム

ケルンのオルガテック 2008 は 10 月 25 日、大成功のうちに終了しました。今回は 113 カ国から約 62,500 人が来場、出展者として 39 カ国から 673 社が参加し、両サイドとも予想以上の成果に非常に満足していました。来場者数は 2006 年の前回に比べ 9.3%増、また展示面積は 13%増です。出展者の 61%、来場者の 50%は外国からの参加でした。「来場者の大幅な増加と質の高さ、そして来場者・出展者双方の国際性の豊かさによって、オルガテックはオフィス家具とファシリティ家具で世界トップクラスの見本市であることをはっきりと示しました」と、ケルンメッセのオリバー・クアト副社長は総括しています。「オフィスでの労働効率化のため世界中で考案されたコンセプトと解決策が、ここケルンで紹介されているのです」。また、オフィス・椅子・ファシリティ家具連盟(BSO)のヘンドリック・フント会長は次のようにコメントしています。「オルガテックは、金融・経済危機の環境にあって業界全体を刺激し、景気低迷をバネにむしろ事業拡大を目指すという意思表示を明らかにしました。この見本市のメッセージは、『優秀な人材獲得にはオフィスのあり方が重要である』ということです。この原則は、景気の先行きが不透明であっても変わりません」。

活気あふれる会場

オルガテック 2008 には業界トップメーカーのほとんどが出展し、ますますダイナミックに、そして複雑になりつつあるビジネスの現場に対応するため、各社が未来志向のコンセプトと解決策を展示しました。来場者の関心も大きく、分野を問わずすべてのブースに多くの人が詰めかけていました。国際性の豊かさも会場の雰囲気を一層盛り上げました。特に東欧、中南米、中近東、南アフリカからの来場者増が顕著でした。出展者は、来場者の多くが購買責任者であったことを肯定的に評価

しています。これは来場者に対する第一次アンケートでも証明されており、来場者の87%が所属企業の購買決定に直接関与していることがわかりました。オルガテックは「ボスが自分で訪れる見本市」と言われますが、それが正しいことが明らかになった形です。来場者の内訳では専門店、卸売業者、建築家、企業のファシリティマネジャー以外に、大手ユーザー企業の購買責任者も多数来場して新製品情報を収集しました。エアバス、BASF、ダイムラークライスラー、ドイチェバンク、ドイチェテレコム、E.ON(電気ガス会社)、エルンスト&ヤング、ルフトハンザ、ポルシェ、ポストバンク、シーメンス、フォルクスワーゲンといった企業が今回のオルガテックを訪れています。

来場者も非常に満足

アンケートでは、出展者だけでなく来場者の満足度が高いことも明らかになりました。来場者の79%は「来場の目的を果たすことができた」とし、80%が出展品目の豊富さに「非常に満足」または「満足」と回答しています。さらに、自身がオルガテックを高く評価していることから、来場者の91%は「親しい取引先にオルガテック訪問を勧める」と答えています。

オルガテック 2008 は、専門店の側からもポジティブな評価を受けています。「我々専門店の視点から見ても、今回のオルガテックは構成を一新して非常に充実していました。ほとんどの出展者が新製品紹介のチャンスを十分に活用しており、訪問の甲斐がありました。出展内容がこれほど時代に即したものだしたのは久しぶりです」。こう述べるのは、ドイツオフィス販売協会(BBW)のトーマス・グロートコップ会長です。「特に家具に加え照明、床材、音響、AV機器などを含めた総合的商品がアピールしました。ファシリティマネジャーや建築家たちもオルガテックをプラットフォームとして十分活用でき、成果があったのではと思います」。

ニーズに十分応える新ホールの構成

今回のオルガテックでは、中心テーマのひとつひとつが従来以上に大きく取り上げられ、その重要性が強調されました。5つの展示分野(家具、照明、床材、音響、AV機器)が、まずメッセ会場中心の大通りでビジュアル中心に展示されたほか、会場内の「ホットスポット」と呼ばれるコーナーで、さらに詳しくテーマ別に紹介されました。新装された北ホール 6, 7, 8, 9 が今回初めて展示に利用され、これに南ホール 10.1 と 10.2 を加えた展示総面積は計 13 万㎡となっています。新しいホールでの展示は出展者、来場者ともに非常に好評でした。柱のない構造で、しかも天井の高さが最高 15 メートルと高いため、出展者はまったく新しいタイプの、斬新な印象のブース設計を実現することができたのです。

成功要因はオフィスにあり：従業員の意欲と生産性向上のための対応策

見本市の新しいモットーは「成功要因はオフィスにあり」。つまり、オフィスで働く人の意欲と生産性を高めるための対応が求められているわけですが、出展各社はじっくり考え抜かれた印象的な展示でこれに解答を示しました。たとえば、ワンフロア(大部屋)オフィスのスペースで、チーム間の密なコミュニケーションと意見交換を促進しつつ、同時に個人が仕事に集中できるようなオフィスのあり方が提唱されました。働く人の創造性を高めるため、今日オフィスのハード面だけでなく、ソフト面も重要性を増しつつあります。ある出展者は、1,300 m²の展示面積を使い、感性に訴える雰囲気たっぷりのオフィス空間を実物大で展示しました。これは観葉植物、香り、音響、照明といった、目立たなくても働き心地に大きく影響する要素を重視したものです。展示に使われた家具そのものが完璧であったことは言うまでもありません。ワンフロアオフィスでは、特に音響と話しやすさが求められます。出展各社はこの点でも革新的な商品を多数展示してユーザーのニーズに応えました。たとえば、エレガントな外観の「部屋の中の部屋」システム、表面に消音作用を施した家具、音響改善のため天井に取り付けた帆布、一見して芸術作品に見える仕切り用パネル、消音効果があり足音も小さくなるカーペットなどがその例です。こうした製品は手早く、接着剤などを使わずに取り付けることが可能です。

現代のオフィス設計で最も重要なのは「人」、そして各人の異なるニーズを満たすことです。従ってオフィスでの対応策も、使う人の個性に合い、柔軟で、できるだけ感覚に訴えるものを想定して考案されます。たとえばRFID(無線ICタグ)で制御するオフィスのデザインスタディモデルでは、デスク周りの機器類が座る人に応じて自動的に設定されるだけでなく、外光やバイオリズムに応じて照明の明るさが自然に調節されます。オフィスチェアも座る人次第です。椅子のトレンドは「活動的に座る」こと。新しいタイプのオフィスチェアは、座る人の体重を感知し、高さを調節することで正しい姿勢を保てるポジションを自動的に決め、さらに体型に応じた柔軟な設定が可能です。最新のメディア技術も、日々の業務効率化に大いに貢献します。データをワンタッチで大きなスクリーン上に読み込んだり、ブルートゥースで携帯電話にダウンロードしたりする技術も展示されました。タッチパネルでコーヒーを注文することもできます。とはいえ、テクノロジーがオフィスの美観を損ねることがあってはいけません。多くのシステムでは、ボタン操作ひとつで機器が家具の中に消える仕組みになっています。

デザインの面でも、オルガテック 2008 は見どころが豊富でした。特にラウンジ家具、また非公式な情報交換やクリエイティブな仕事のためのコーナーなどが、洗練されたデザインで来場者を魅了していました。レトロ家具を出展した企業も少なくありません。60年代、70年代を懐古するだけでなく、当時のモダンクラシックスを新しいデザインとして復活させる試みです。家具に使われる素材は黒檀、栗、オークなど高品質の木が主流で、色では白が人気でした。

[メッセ・データ]

出展者数： 39 ヲ国 673 社 (ドイツ国内 263 社、外国 410 社、外国比率 61%)

来場者数： 113 ヲ国 62,500 人 (外国人比率 50%)

総展示面積： 130,000 m²

次回のオルガテック 2010 は、2010 年 10 月 26 日 (火)～30 日 (土)に開催されます。

ケルンメッセに関するお問合わせは下記までどうぞ。

ケルンメッセ株式会社

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 5-13-1 虎ノ門40MTビル9F

TEL:03-5405-2202 FAX:03-5405-2203

E-Mail:kmjpn@koelnmesse.jp <http://www.koelnmesse.jp>

*2008 年 12 月 1 日より下記へ移転致します。

〒106-0045 東京都港区麻布十番2-20-6 ジャノメ麻布十番ビル7F

TEL:03-5418-6245 FAX:03-5418-6246